

## (2) CO<sub>2</sub>削減のシミュレーション

今回の試算では、それぞれの手法について、2010年、2020年、2030年における目標値を設定しそれぞれにおけるCO<sub>2</sub>排出削減量を積み上げ、対策を施さなかった場合の排出量から差し引いて対策を行った場合の排出量を試算し、2003年の排出量からの削減量の比を求めました。

対策を施さなかった場合、民生部門や産業部門では2010年までは世帯数の増加もあり若干CO<sub>2</sub>排出量が増加しますが、自動車の燃費向上、天然ガス化（2005年）の寄与、電力における再生可能エネルギー比率（グリーン電力比率）等の要因により、トータルでは若干減少するという試算結果になりました。2020年以降は世帯数の減少を主な要因として、CO<sub>2</sub>排出量は減少していきませんが、2030年時点でも、2003年レベルから12.5%程度の減少に過ぎません。

そこで、先に述べたようなさまざまな対策を施すことで、2010年に10.1%、2020年に31.2%、2030年には49.0%と、ほぼ新エネルギービジョンの目標通り（2020年では目標以上）のCO<sub>2</sub>排出削減率を達成できる試算結果が得られました。

もちろんこれらの試算は、現状で考え得る対策を仮定の条件に当てはめたもので、設定の仕方で変化するものですので、あくまで大まかな目標値でしかありません。しかも、これらの数字の達成は、現状から考えてきわめて大きな挑戦です。

しかし、対策を着々ととっていかない限り、けっして目標達成はできません。その意味で、こうした数字を示すことでそれぞれの目標年に向けて、いつ、どういう対策を進めていかなければならないのか、そうした施策の方向性や目安を示すことができます。

次からは、ここで検討した手法・対策とそれぞれの導入目標について細かく見ながら、2030年までの福生市のCO<sub>2</sub>削減施策の内容について考えます。

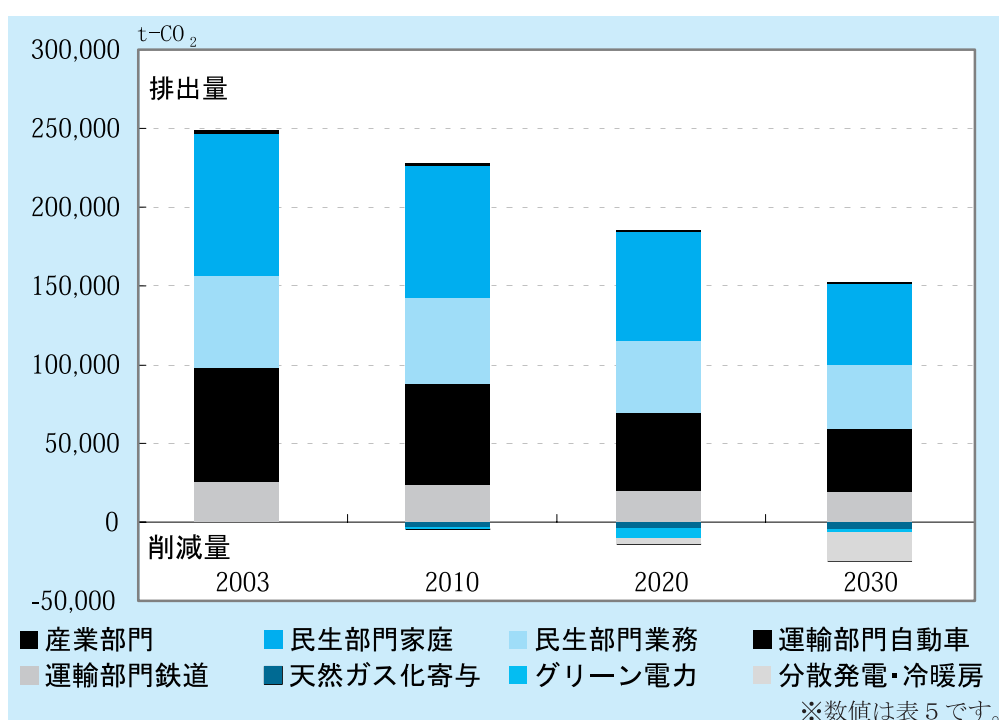


図1 対策ありの場合のCO<sub>2</sub>排出量・削減量推移